

photo_ Satoshi Nagare
text_ Seishi Isozaki
edit_ RCKT/Rocket Company*

ART

齋藤精一氏と巡る六本木アートナイト
スペシャルガイドツアー

世界が目指めるメディアアートを手掛ける「ライゾマティクス」の齋藤精一氏と一緒に「六本木アートナイト」を巡るガイドツアーを実施。参加者たちは、世界的アーティストと直接交流する“特別感”を存分に楽しんだ。第1部では約1時間かけて効率よくアートを鑑賞。第2部では鑑賞後に齋藤氏とカジュアルに語り合える食事が用意され、アーティストならではの想いや視点に触れられる、貴重な機会となった。



SPORTS

4回のシリーズ開催でプロトレーナーが
フルマラソンの攻略法を伝授

アディダス ジャパン協力のもと、プロトライアスリート、白戸太郎氏を招いて『プロトレーナーに教わるフルマラソン攻略クリニック』を開催。レベルアップを狙いたいマラソン経験者と将来的に出場を目指す方にレベル分けすることで、シェーフィッティングから屋外でのランニングまで、実践的な指導を実現した。最終回は、東京マラソンの前日に設定。同大会参加者の最終調整も兼ねたトレーニングを行った。



FAMILY

ドレスアップした小さなレディを
お父さまたちがエスコート

日々ビジネスで多忙を極めるお父さまたちに、お嬢さまと過ごす特別なひとときを。そんな思いで4年前に始めたのが、『Father Daughter Party』。今回は六本木ヒルズクラブ the club room Iで『Masquerade Fantasy』と題した仮面舞踏会を開催した。父娘で社交ダンスのレッスンを受けた後、会場で待つお母さまたちの前に登場。社交デビューを疑似体験する小さなレディと、エスコートするお父さまたちの笑顔が印象的だった。



29 居住者限定イベント

MORI LIVINGへの招待

多様なバックグラウンドを持つ人々の
好奇心を刺激する企画が目白押し

生活の質を高める“特別な体験”

「MORI LIVING の物件にお住まいの方は多種多様なバックグラウンドをお持ちです。それぞれ興味の対象も違いますから、幅広いジャンルのテーマを扱うこと。そして、“MORI LIVING ならではの特別な経験”をしていただくことが大切だと思います」。そう話すのは、年間50本以上の居住者向けイベントを企画・運営する森ビル住宅事業部住宅運営部の天野圭子さん。企画立案や講師を選定する際、念頭に置くのは、MORI LIVING は単に居住空間を提供するだけでなく、東京でのよりよい住まい方を提案し、実現へと導く“ライフスタイルブランド”であるということだ。また、“複合開発をベースとした街

づくり”に実績がある森ビルの強みを生かし、美術館や映画館、ヒルズスパ、その他テナントとの連携を積極的に図るようにしているという。「私たちの部署単体でできることには限界がありますが、施設やテナントの協力を得られれば可能性はぐんと広がります。それぞれの“本業”を企画のベースにできることは、私たちの最大の強みといえるでしょう」。たとえば森美術館の南條史生館長を迎えて実施したアート鑑賞会は、MORI LIVING ならではの企画だったと振り返る。「どのイベントもバイリンガル対応ですが、この時は『他者のフィルターを通さず、自分自身の言葉でアートの本質を伝えたい』という館長の意向で通訳をつけませんでした。この点を、参加した皆さまに高く評価していただきました」

繋がる人々、広がるコミュニティ

一昨年は、初の試みとなるランニングイベントを開催。トライアスロン選手としても活躍するプロトレーナー、白戸太郎氏を招聘し、フルマラソンを完走するための実践的な指導を仰いだ。参加者からは「白戸さんから一人ひとり、直接アドバイスを受けながら、実際に走ることができたのがよかった。ぜひまた開催してほしい」との声が多く寄せられているという。「いずれのイベントでも、終了後に参加した方々が連絡先を交換する一幕がありました。イベントが共通の趣味を持つ方々の出会いの場となり、コミュニティ形成の場としても機能することを実感できて、本当に嬉しいです」

イベントを通して東京の魅力を発信

広報室などと連携して、全編英語にて六本木ヒルズのバックヤードツアーを外国人居住者向けに敢行できたことも、大きな収穫だった。「1000分の1サイズの東京の模型、屋上庭園、備蓄倉庫、アートなどをご紹介しながら、それらを設置する意義もお伝えすることで、森ビルが進める街づくりへの共感を呼ぶことができました」と、笑顔で話す。今後はさらに舞台を広げ、街や周辺地域とも連携した、大規模なイベントの運営にも取り組んでいきたいと、意欲を見せる。「MORI LIVING ならではのイベントに参加することで、居住者の皆さまに、東京の魅力をより一層感じていただきたいと思います」



ヒルズの魅力を知り尽くしたメンバーが居住者イベントを企画・運営。

COMMUNITY

手持ちのスマホを使って
フォトジェニックに撮るコツを伝授

雑誌『Discover Japan』で活躍する写真家、工藤裕之氏を講師に迎えた『フォトジェニックな写真を撮るコツを学ぼう!』は、普段使っているスマホやデジタルカメラを用いた実用講座。構図や光の取り入れ方、集合写真の撮り方、料理をおいしそうに写すコツなどのテクニックや、便利なカメラ機能を紹介した。平日午前中の開催は、「子供たちが学校に行っている間に参加できる」と、お母さまたちにも好評だった。



CULTURE

リニューアルしたサントリーホール
貴重なバックヤード見学会

2016年に開館30周年を迎えた後、2017年に全館改修工事を行ったサントリーホール。その幕開けを飾る『ダイワハウススペシャル Re オープニング・コンサート』のバックヤードツアーを実施。オーバホールと調音を終えたばかりの、世界最大級のパイプオルガンのリハーサルや、コンサート本番前の舞台上などの見学などが行われ、参加者たちから「普段は見ることのできない所を見学できた」と、大変喜ばれた。



EDUCATION

安全な暮らしを守る六本木ヒルズの
裏側を全編英語で案内

森ビルの街づくりの理念である「安全」「環境」「文化」をテーマに、子供たちを対象に行う、森ビル広報室主催の『ヒルズ街育プロジェクト』。その人気プログラムをベースとした『六本木ヒルズの裏側を探索しよう』を、外国人居住者向けに開催。東京の都市模型、備蓄倉庫、屋上庭園などを見学・鑑賞したほか、耐震構造に関するワークショップを実施した。「安全・安心な街づくりへの理解が深まった」との声も。

